

千葉県社保協通信

2020年度 — No13 2020年 12月25日号

〒260-0854 千葉市中央区長洲 1-10-8 自治体福祉サカビル 3F

TEL : 043-225-6790 FAX : 043-221-0138 Eメール syaho2006@star.ocn.ne.jp

運動でこそ 権利は守られる **県社保協** 社会保障としての国保制度に転換を!!

12. 20国保改善運動学習交流集会

千葉県社保協は20日(日)千葉市内の自治体福祉センターにて「国保改善運動学習交流集会」を開催。オンラインを含め50人が参加しました。

医療保険制度の土台

いのち・健康・くらしを守る国保制度

はじめに「国保をめぐる国・県の動向と運動課題」について、鈴木英雄氏(県社保協国保部会責任者)が問題提起しました。(写真右上)

鈴木氏は「国保は憲法が保障する社会保障の医療制度であり、自治体(県・市町村)が保険者で、3割から4割の世帯が加入しており地方自治のあり方が最も問われる制度」と強調しました。

高すぎて払いたくても払えない国保料(税)

しかし、「全世代型社会保障」政策のもと、コロナ禍、消費税増税、自然災害が相次ぐ中、格差と貧困が広がり、加入者である中小業者、農漁民、非正規労働者、無職者、年金生活者が高すぎる保険料に苦しめられている。「滞納」がない人でも生活費や営業費を削って「無理して」支払っている実態があり、健康不安を抱えている。「滞納問題」には、くらしと権利の実態が鮮明に出ており、この問題の解決なくして「くらしと人権は守れない」と指摘。国保に入るべきすべての住民の「くらしと労働・健康を丸ごとつかむこと」が必要と話しました。

県単位化で 医療費抑制、

さらなる国保料(税)引き上げ、徴収強化へ

現在、県がすすめている「千葉県国民健康保険運営方針」中間見直し案について、市町村による①国保料(税)の引き下げのための法定外繰入れの縮小②将来的な保険料水準の統一③加入者の実情を顧みない収納対策の強化などの問題点を指摘しました。

国庫負担の抜本的増額と県補助金の復活を

払える保険料にし、受診権を守るために、全国知事会が要望する1兆円の公費投入、県の補助金の復活と市町村での法定外繰入れの継続・拡充を求め、医療、保健体制の抜本的な拡充・改善が必要。↗



さらに、保険料を応能負担原則にし「平等割・均等割の軽減・廃止」「減免制度の拡充」「窓口負担の免除や軽減」をはかること。また強権的徴収に対し、徴収緩和措置(徴収猶予・換価の猶予・執行停止など)を知らせ、権利を行使することを強調。あわせて「マイナンバー制度」のねらいに触れ、納税者の権利を蹂躪し、徴収強化につながると指摘。「健康保険証化」をやめさせよう強調しました。

県知事選挙で国保を大きな争点に

来春の県知事選挙。地方自治の原則を活かす制度運営の抜本的改革へ、憲法25条の人権保障、社会保障充実の予算、税制や社会のあり方をめざし、制度の抜本的改善のためには、住民の権利を守ることのできる知事を選ぶことが求めると強調しました。



▼県保険医協会理事・歯科医師の中村誠二氏(写真左)と千葉民医連ソーシャルワーカーの松本若菜氏(写真右下)は、コロナ禍の医療現場の状況や非正規雇用者や失業者がいつそう困窮し、重症化や手遅れ死となる実態を報告。

—参加者からの発言—

●千葉市国保を考える会

～「国保なんでも相談電話」と「熊谷市政の下での国保について」

●松戸社保協

～「コロナ禍のすべての市民の生活・健康・生命を守るために正規保険証を交付すること等を求める緊急要請について」

●年金者組合千葉県本部

～75歳以上の医療費窓口負担2割化に反対する

●自治労連千葉県本部～自治体職場の現状から

他



コロナ禍 労働・生活なんでも相談会

千葉労連・県民医連・県社保協・弁護士などでつくる「ちば派遣村実行委員会」は19日(土)JR千葉駅東口にて13時から16時まで「労働・生活なんでも相談会」を開きました。全国一斉フリーダイヤルの「電話相談会」も併せて行い、19時までに16件の相談が寄せられました。医療、くらし、福祉、労働法律など各分野のスタッフ50人が相談に対応しました。



切実な相談が
相次ぎ寄せられた

千葉駅東口のテントを訪れた60代男性は「コロナ禍で、警備員の職を失い、1週間後には寮を出なければならぬ。預金もわずかしかない」と。生活保護につなげるよう申請に同行することになりました。

60代女性は「障害者施設で働いていたがコロナ感染拡大で持病があるためやむなく退職」「非正規やひとり親、高齢でも働かざるを得ない人達への支援を厚くしてほしい。政府は何をしているのか！TVで知り、気持ちを共有したくて電話した」と話しました。実行委員会では今後の取り組みにつなげていくことを検討しています。

**75歳以上
医療費窓口負担**

2倍化許さない！

我孫子駅北口で宣伝署名行動



18日(金)、我孫子駅北口で、「あびこ医療と健康友の会」が16人で宣伝署名行動を行い、「75歳以上医療費窓口負担2割化反対」の横断幕を掲げ、「現役世代との分断を図り、75歳以上の高齢者の医療費自己負担額を2倍にすることは許せない」と訴えました。1時間ほどで100枚のチラシを配布。「いのち署名」など34筆の署名が寄せられました。

田中なつみさん(あびこ社保協)は「行動して元気になりました」「“自助”を掲げ、国の出番は最後という酷い菅政治の中身を知らせ、声をあげようと訴えました」「友の会の緑色のジャンパーを着て、コロナ感染に気をつけながら頑張ってきた」と話しました。



「頑張って下さい」と言いながら
チラシを受け取る人も

県憲法共同センター・消費税廃止連絡会・社保協

**改憲NO！ — 千葉駅頭共同宣伝 —
いのち・くらしを守る政治へ転換を！**

コロナ感染拡大の中、22日(火)昼、千葉駅前共同宣伝を行いました。

自転車で通りかかった女性に声をかけると「国保料が高い。窓口負担は2割だけど今は元気がだから医者通いはないが先は心配」と。「政府は、コロナの収束も見通せないのに、消費税減税にはノー、75才以上の医療費窓口負担を1割から2割にしようとしている」と話すと「私73才だからすぐのことだね。いま2割だからどうなのかな・・・でも年をとれば病気も出てくるだろうし、年金だけじゃ少ないし困る人、医者に行かない人がふえるかも・・・税金の使い方、こうしたところに使わないでおいしいと思うよ」と「消費税5%へ」の署名に応じました。

「改憲NO!」「消費税5%へ」「いのち署名」合わせて14筆が寄せられました。



千葉土建・千葉労連・自治労連・千商連・法律関連労組・共産党など8団体15人が参加しまし